



# 小国中だより

小国町立小国中学校  
令和2年10月20日  
文責 八木幸夫

## 合唱に思う

校長室に音楽の授業の合唱が聞こえてきます。昼休みを終え、有志合唱の「手紙」を口ずさみながら階段を降りてくる生徒がいます。合唱練習への移動を促す放送で、生徒達が動き出します。今、小国中は合唱に一生懸命です。

生徒達の合唱に耳を傾けながら、また今年も小国中学校文集「やまなみ」を読み返しました。

### 昭和62年度3年1組 学級紹介から

私達のクラスにとって一番思い出に残る行事と言えば、やはり合唱コンクールです。指揮者を決め、自由曲を決めることから始まって、男子が歌がわからないとか、声が出ないとか、途中の問題はたくさんありました。それでも、まともは少しずつ出てきて、男子も女子も次第に練習に熱が入ってきました。男子だけで放課後練習したりもして、とにかく当日までは何とかやれるだけのことはやれたと思います。そして、当日も思い切りよく歌うことができました。結果は金賞。最優秀がとれなくて、その差が1点だったとか・・・みんなはとても悔しがって、女子はみんなが泣いていました。その後、教室の戻ってもう一度みんな合唱したのは橋本先生のクラスっぽくて良かったように思います。負けて泣けるほど一生懸命やれて、みんなも悔いは残っていませんでした。（一部抜粋）

文 昭和62年度卒業生 高橋睦人さん

手前味噌で恐縮ですが、昭和62年度小国中学校3年1組は、校長（八木幸夫：結婚前は橋本でした。）が教員生活で初めて卒業させたクラスでした。生徒の歌う合唱を聞いて、顔がぐじゃぐじゃになるほど泣いたのを今でも覚えています。悔しかったのではありません。嬉しかったのです。生徒達の歌声に感動したのです。生徒達の結んだ絆に感動したのです。



今年の全校合唱練習は、新型コロナ対応のために分散練習が基本です。しかし、例年にも増して、パートリーダーを中心にしたまともが感じられます。リーダーを中心に自然に生徒が集まり、当たり前のようにアドバイスにうなずき、また歌い出す。体の距離は離れていても心の距離が少しずつ、少しずつ近づいているのを感じます。

有志合唱の呼びかけが行なわれ、学級、学年の枠を越えて40人を超える生徒が昼休みに練習に自分から取り組んでいます。

各学級の合唱は、学級一人ひとりの様々な思いを包み込んで、少しずつ少しずつ作り上げられています。

時を超えて、今年も小国中生の合唱の伝統はしっかりと受け継がれているのを感じます。